

# 個人投資家向けイブニングセミナー Q A メモ

## 安田倉庫株式会社 (9324)

開催日：2020年9月23日（水）

説明者：代表取締役社長 藤井 信行 氏

### ◆ 当日いただいたご質問に対するご回答

Q1. 新型コロナウイルス対策による業績への影響とポストコロナへの対応方針を可能な範囲で説明頂けますか？

Q2. コロナ禍による業績・働き方への影響はありましたか？

Q3. コロナ禍での働き方は如何ですか。

Q10. コロナ禍における働き方改革について教えてください。

(A1~A3、A10) コロナ禍による業績への影響は一部顕在化しておりますが、業績は概ね計画の範囲内で推移しております。物流事業においては陸運料や国際貨物取扱料及び倉庫作業料などが減収となっておりますが、貨物の滞留により保管料は堅調に推移しており、また、新規施設の稼働や倉庫・輸配送ネットワークの拡充などの事業基盤の強化により、通期の物流事業全体では増収を見込んでおります。不動産事業においては、外食・カルチャースクール関連などの事業縮小やテレワークの拡大によるオフィス縮小などの動きが一部テナントで見られる一方、堅調な新規テナント需要もあり、不動産賃貸料等への影響は軽微であります。

また、働き方への影響ですが、お客様への営業活動については Web 会議等を活用し、可能な限り訪問をしなくとも営業が可能な環境を整えております。テレワークは営業、管理部門を中心に実施しております。倉庫営業所勤務の従業員は一般的にはテレワークの実施が難しい職種となりますが、可能な限り時差出勤やシフト制の活用等を実施し従業員のための感染症対策をしっかりと行っております。

Q4. PBR が低迷していますが、株価対策はどのように考えていますか。

A4. 株価を上げるための施策としては第一に、安定して事業を推進・業績を向上させて株主に還元をする、という循環を強化していくことです。メディカル分野、IT 機器物流を成長ドライバーに位置づけ、業績向上に努めて参ります。また、既存の業務についても、お客様に対しても取引条件の改定などに粘り強く取り組んでおります。また内部では今年度よりコスト構造改革委員会も設置し、積極的にコストの見直しに取り組む収益力の向上に努めております。利益を上げることで投資家の皆様に当社の魅力をお伝えし、株を買っていただくことで、株価が上がるようにしていきたいと思えます。まだ株主でない方にも当社を知っていただくべく、努力を進めております。

Q5. 多数の上場倉庫会社のなかで含み資産が大きいと聞きます。評価資産はどの程度ありますか

大和インベスター・リレーションズ(株) (以下、「当社」といいます。)はこの資料の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに記載された意見等は当社が開催する個人投資家向け会社説明会の開催時点における当該会社側の判断を示すに過ぎず、今後予告なく変更されることがあります。当社は、ここに記載された意見等に関して、お客様の銘柄の選択・投資に対して何らの責任を負うものではありません。この資料は投資勧誘を意図するものではありません。当社の承諾なくこの資料の複製または転載を行わないようお願いいたします。

すか？また、それは、業界で何番目になりますか？

A5.2020年3月期の有価証券報告書に基づく「主要な設備の状況」における帳簿価額合計(国内子会社、在外子会社を含む)につきまして下記の通りになります。

(百万円)	安田倉庫	三菱倉庫	三井倉庫	住友倉庫	澁澤倉庫
帳簿価額	64,558	233,028	126,840	129,995	53,475

Q6. 新型コロナウイルスの影響はいつごろまでを想定しておりますか。

Q7. 新型コロナにより物流事業にはどのような影響が出ていますか。外出自粛で通販の利用拡大は物流事業の業績にプラスに働くと思います。マイナス要因としてはどのようなことがありますか。

(A6~A7) 新型コロナウイルスの影響は一定程度、長期間にわたって影響があると見込んでおります。業績への影響としては貨物の荷動きの鈍化なども想定されますが、医療関連貨物や巣ごもり需要による通販貨物の増加などの市場変化も見込んでおります。

Q8. 上場倉庫会社のなかで比較して、貴社の特徴・強みは何ですか？

A8. 強みといたしましては、首都圏、関西圏に拠点に厚みがあることです。大消費地に近い首都圏・関西圏に拠点が集中していることで効率的なオペレーションを可能としております。高速道路ICや空港に至近な点も他社と比較して優位性があります。

また、取扱貨物では電気機器、精密機器、医療機器など、物流コストに対して負担力のある高付加価値製品、最終品を多く取り扱っております。例えば、医療機器では、当社の倉庫と羽田空港への近接性を利用し、受注翌日午前中に全国の主要地区に納品を完了するモデルが確立しており、お客様のご評価を頂いております。

今後強化が必要な点といたしましては、大都市圏以外の運送ネットワークです。この点について2019年の大西運輸を含め、運送会社のM&Aによりネットワーク拡充を図っております。今後も自社での配送網、特に日本国内の幹線輸送について更に強化していく方針です。

Q11. 社員の育成について重点を教えてください。

A11. 人材育成及び社員教育は組織の維持・成長にとって重要な施策であると考えております。当社では新入社員研修を始めとして若手、中堅、管理職など社員ごとの経験に応じた教育体制を備えております。また、グローバルな留学制度もあり、国際的な人材の育成にも力を入れております。

Q12. 株主還元について詳しく知りたい。

A12. 株主還元については配当性向をみつつ継続的に還元を図っていきたいと考えておりま

大和インベスター・リレーションズ(株) (以下、「当社」といいます。)はこの資料の正確性、完全性を保証するものではありません。ここに記載された意見等は当社が開催する個人投資家向け会社説明会の開催時点における当該会社側の判断を示すに過ぎず、今後予告なく変更されることがあります。当社は、ここに記載された意見等に関して、お客様の銘柄の選択・投資に対して何らの責任を負うものではありません。この資料は投資勧誘を意図するものではありません。当社の承諾なくこの資料の複製または転載を行わないようお願いいたします。

---

す。また、株主優待についても今後見直しを検討したいと考えております。

Q13. 内外ともに屋外、屋内作業での感染対策に注力されていると思いますが、それによるコストアップが如何なものかお知らせください。

A13. 屋外・屋内作業および事務業務につきましては、手洗い・消毒、マスク着用の徹底やテレワークの推進、事務所でのアクリル板の設置などを行い感染予防に尽力いたしております。予防策の導入によるコストへの影響は軽微です。

Q14. 港湾荷役や通関業務はされていますか？

A14. 港湾荷役作業（船と陸との間で行われる貨物の積卸作業）は自社では行っておらず、協力会社に委託しております。通関業務につきましては AEO 認定通関業者として自社通関士によるサービスを提供いたしております。

Q15. 昨今、米中の貿易摩擦で貿易が滞っているようなことを聞きます。上海に倉庫をお持ちとのことですが、御社の業績等に何か影響はありますか？

A15. 上海の自社倉庫では、子会社である安田物流（上海）有限公司が倉庫事業を行っております。中国国内物流向けの拠点であり、日本ブランドの化粧品や文具等を取り扱っており、EC 物流サービスも提供するなど業績は好調であります。米中の貿易摩擦について、現在までのところ大きな影響は受けておりません。

一方で、海上フォワーディングを行っている安田中倉国際貨運代理（上海）有限公司においては、米中貿易摩擦や中国経済の減退の影響もあり、自動車、建機、電子部品、機械設備などの広い業種で、取り扱っている輸出入貨物（海上・航空）の減少傾向が見られます。

Q16. メディカル事業では、どこかの製薬会社と取引・提携などありますか？

A16. 具体的な社名は非開示とさせていただきますが、複数の国内外の大手製薬会社様や医療機器メーカー様とのお取引がございます。

Q17. P10 それぞれの物流分野の売上・利益の割合を教えてください。

Q25. メディカル物流や IT 機器物流の売上比率は？

A17、A25 物流分野ごとの売上・利益の割合については現状、非開示とさせていただきます。一つの指標として、メディカル分野・IT 機器物流ともに、直近 5 年間で 20% 程度の成長を遂げています。

Q18. E コマースへの取り組みの現状を教えてください。

Q35. EC の物流・倉庫は今後伸びると思われるが貴社の EC 物流への取り組みをもっと教え

---

てほしい。

(A18、A35.) 当社全体における取扱ボリュームとしては決して多くはありませんが、家電メーカー等で EC 関連業務の取扱が伸長しています。今後の取扱い増加が見込まれますので、IT ツールの導入や配送の効率化を準備しています。また、当社グループの芙蓉エアカーゴ(株)では、EC を用いた国際宅配便貨物取扱の物流サービスを提供しており、順調に推移しております。海外においては、安田物流（上海）有限公司でも中国国内物流向けの EC 物流サービスを実施しており、コロナ禍における巣ごもり消費を背景に取扱を拡大しております。

Q19. 今回の新型コロナウイルス関連の対応でメディカル物流サービスはどの様に活躍、貢献していますか。

A19. まずは、コロナ禍でご対応いただいている医療従事者の方々へ感謝を申し上げます。当社はメディカル物流を担う会社として、医療機関への医薬品や医療機器などの供給といった社会インフラを維持するため、感染対策をしっかりと行いながら事業を継続し物流を止めないことで社会へ貢献いたしております。また、新型コロナウイルスの直接関連ではありませんが、弊社倉庫のいくつかは国土交通省の災害物資保管拠点として登録をされています。

Q9. 様々なサービスを提供されていますが、成長期待が高く、特に注力されているサービスについて詳しく教えてください。

Q20. 中期経営計画の基本戦略に「付加価値の高いロジスティクス・サービスの提供」があります。本サービスの特長、競合他社との違いや強みについて教えてください。

Q34. 物流、文章保管情報管理引越や不動産など多角化を進めているようですが、今後伸ばしていきたい分野があれば教えてください。

(A9、A20、A34.) 説明の中でも触れていますが、当社事業の中で今後の成長ドライバーとして期待し注力しているのはメディカル物流と IT 機器物流の分野となります。メディカル物流では、冷蔵設備や災害に強い免震構造の建物、医療機器の販売資格や許可証、特別車両による温度管理など、専門性の高いサービスを提供しています。また、メディカル物流分野をさらに強固な柱とするため、江東区の東雲・辰巳に新拠点を設けます。羽田空港から 15~20 分の立地というメディカル物流に最適なエリアとなります。メディカル分野の物流では、例えば、カテーテルなどを全国各地の病院に明日中に届けてほしいという注文が入り、製品を特定して複数個送るケースが多々発生します。希望の製品を用意し、アレンジした上で迅速に送るためには、倉庫が羽田に近いことは大きな利便性に繋がります。また単に荷物を運ぶのみでなく、菓子ラベルの貼付などの流通加工や機器の修理などを提供することで、高付加価値なサービスを実現しています。

---

IT 機器物流では、パソコンやスマートフォンなどの IT 機器について、キitting (簡単な組み立てやソフトウェアのインストールを行う作業) から配送・設置、回収・廃棄までの一連の作業を提供しています。在宅勤務の増加や IoT の拡がりの中で、大きなニーズが生まれています。その他、ATM 等、コンビニエンスストアに納める機器も取り扱っており、こちらもキittingから配送、据え付け等を行っております。

Q21. 御社が経営上で重要視する KPI をお持ちですか？あれば教えてください。

A21. 現在の中期経営計画「YASDA Next 100」では、営業収益・営業利益・営業利益率の 3 つの指標を目標として設定しており、同時に経営上の KPI として認識いたしております。また、その他に ROE や ROA など重要な指標であると認識しておりますが、当社では前述の指標を重要視しております。

Q22. スライド 23 枚目のセグメント別利益の中で、文書保管や IT 関連はどこに含まれているのでしょうか？

A22. 文書保管、IT 関連は全て物流セグメントに含まれております。その他、国内物流、メディカル物流、海外・国際物流につきましても物流セグメントに含まれております。

Q23. 芙蓉グループとの協力関係について。

A23. 芙蓉グループ内の複数の企業様と一定程度のお取引がございます。

Q24. M&A のお考えはどのようにお持ちでしょうか。

A24. 現在の中期経営計画「YASDA Next 100」の基本戦略の中において、「シナジーの見込める M&A の実施」を挙げております。本年 8 月には、M&A 案件の更なる推進と業務の迅速化のため、M&A の企画実行を中心業務とする「戦略企画部」を新設いたしました。基本的には、当社業務とのシナジーが見込めるかどうかも含めて積極的に検討する方針としております。また、当社事業領域から大きく外れる分野での M&A を行うことは考えておりません。物流事業であれば実際の物流現場を担うことになる運送会社やフォワーディング会社などが対象となり、昨年は金沢を拠点とする大西運輸(株)、オオニシ機工(株)を M&A によりグループ化し、北陸地区の物流ネットワークの強化を実施いたしました。

Q26. P7、P16 に記載されていますが、ホテル関係の業績はどのようなのでしょうか？

A26. 当社の不動産事業では、建物やオフィスの賃貸を主な事業としております。ホテルに関しましても、その一環として当社による自社運営ではなくホテル事業を営んでいる顧客へ建物を賃貸いたしております。当社のオペレーションではないため、当社の業績への影響は軽微でございます。ホテルの業績といたしましては新型コロナウイルス

---

の感染拡大が進む以前は順調に推移しておりコロナ禍によって一時業績の悪化が見られましたが、現在は回復基調にございます。

Q27. 株主優待に関して、長期保有の優待を検討していますか？

A27. 現在のところ、長期保有の優待は行っておりませんが、今後、長期保有の優待や配当などの改善を検討してまいります。

Q28. ラビスタの優待の詳しい内容教えてください。

A28. 株式会社共立メンテナンス様のご厚意により、毎期末（3月31日付）及び毎中間（9月30日付）時点で100株以上保有の株主様へ「ご宿泊優待券（有効期限付き）」をお渡ししております。こちらの優待券をご利用いただくと、株主様特別料金にてご宿泊いただくことが可能です。

Q29. 現場の作業員は充足していますか。

A29. 子会社のヤスタワークス（倉庫荷役業）やワイズ・プラスワン（派遣・業務請負業）と連携し、各種媒体を利用した人材募集や新規人材派遣会社の開拓に努めております。倉庫内での作業員の確保は容易ではありませんが、採用のために、給与や労働環境などの待遇改善を継続して行っております。また、倉庫作業現場では、臨時作業員でも安心して作業できるようなツールの導入や、機械化による省力化にも努めております。

Q30. 物流は自動化、省力化が重要になっていますが御社の今後の投資計画はどのようになっていますか。投資額計画を知りたいです。

A30. 中期経営計画「YASDA Next100」において、「最先端テクノロジーの活用」は重要な戦略の一つとして考えております。倉庫内での作業省力化を図るべく、日ごろよりハンディターミナルやタブレット端末等のスマートデバイスの積極的な活用や新たな技術・機材の調査、研究に努めております。

倉庫の現場においては、AIやロボットを積極的に取り入れられる分野を研究、物流現場への適用について試行錯誤しており、今後も積極的に投資していく考えでおります。事務作業においては、これまで人が行っていたことをRPA(ロボティック・プロセス・オートメーション)を活用することで人員数を極小化させ、より高度な業務への配置転換を行ってまいります。

Q31. 文章保管等で顧客の機密情報等を扱っている様ですが、社員のコンプライアンス教育はどのように行っていますか？

A31. 文書保管等のお客様の機密のみでなく、他の物流業務でも機密情報に接する機会がございます。当社では新入社員より管理職に至るまで常に法令順守や社内ルールの徹底

---

---

を指導する教育研修を行っております。

Q32. 不動産分野のテナントは何社程いらっしゃるのでしょうか？またコロナの影響による退去等の状況はいかがでしょうか？

A32. 不動産のテナント様は数百社ほどいらっしゃいます。コロナ禍による影響は軽微でございます。

Q33. 大手取引先の占める御社の割合を教えてください。可能であれば、大手のTOP3を教えてください。

A33. 具体的な社名は非開示とさせていただきます。取引先様は、高付加価値商品のお客様を中心に数多くの優良企業様へ物流を提供いたしております。ある特定の取引先様に偏っていることはございません。

以上